

2026年3月期 第2四半期

# 決算説明会資料

2025年11月11日



大成建設

For a Lively World

表紙写真: 大成建設グループ 次世代技術研究所  
管理研究棟 (埼玉県幸手市)

© 大成建設株式会社 / Taisei Corporation. All rights reserved.

# 1. サマリー

## 2026年3月期 第2四半期決算

- 各事業セグメントで増益。中間純利益は636億円
- 単体売上総利益率は土木21.9%・建築10.7%と大幅改善

## 2026年3月期 通期予想

- M&A影響、土木事業・建築事業の利益率の好転、政策保有株式の縮減状況を反映し各項目を**上方修正**
- 当期純利益は**過去最高益**の見通し

## 株主還元

- 通期予想の修正に伴い、年間配当を**250円に増配**  
(中間配当は75円→125円に増配)

## 政策保有株式縮減

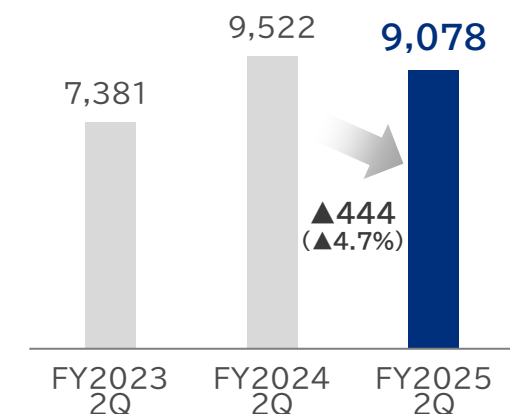
- 2025年4月-9月で**209億円**を売却(連結純資産比率32.8%)

## M&A

- 2025年9月に東洋建設への**TOBが完了**(保有割合61.81%)
- 100%子会社化に向けて手続き中

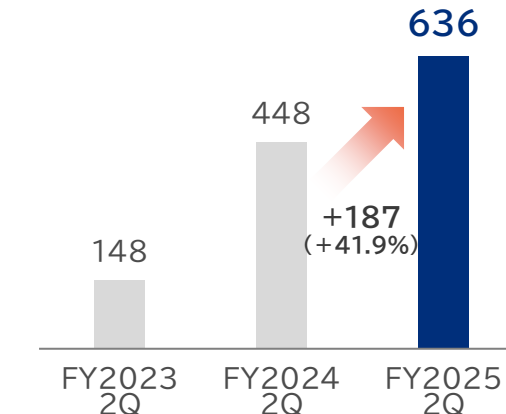
## 連結売上高(実績)

(億円)



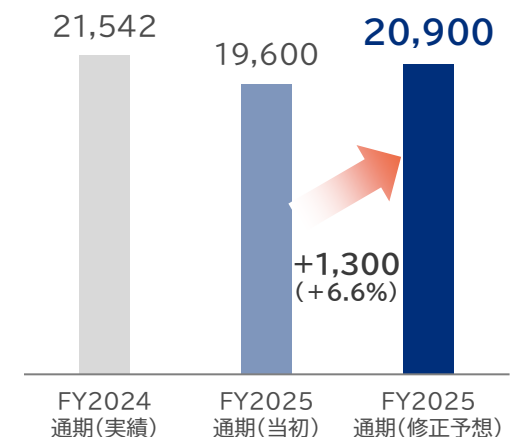
## 連結当期純利益(実績)

(億円)



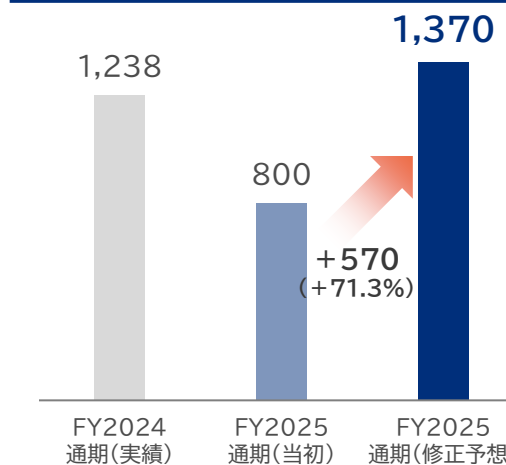
## 連結売上高(予想)

(億円)



## 連結当期純利益(予想)

(億円)





# 2026年3月期 第2四半期実績 通期予想

---

## 2.主要数値の実績と予想

### 3-1.受注高

### 3-2.売上高

### 3-3.売上総利益

### 3-4.単体・完成工事利益率

### 3-5.販売費および一般管理費

### 3-6.営業利益

### 3-7.経常利益

### 3-8.中間純利益

### 3-9.当期純利益

### 3-10.グループ会社業績

### 3-11.開発事業の概況

### 3-12.バランスシート・キャッシュフローほか

## 2. 主要数値の実績と予想

- 第2四半期実績は、土木事業・建築事業の売上総利益率が大幅改善し、段階利益はいずれも過去最高益
- 通期予想は、M&A影響・建設事業の利益率の好転・政策保有株式の縮減の進捗状況を反映し、すべての項目を上方修正  
当期純利益は過去最高益となる見通し

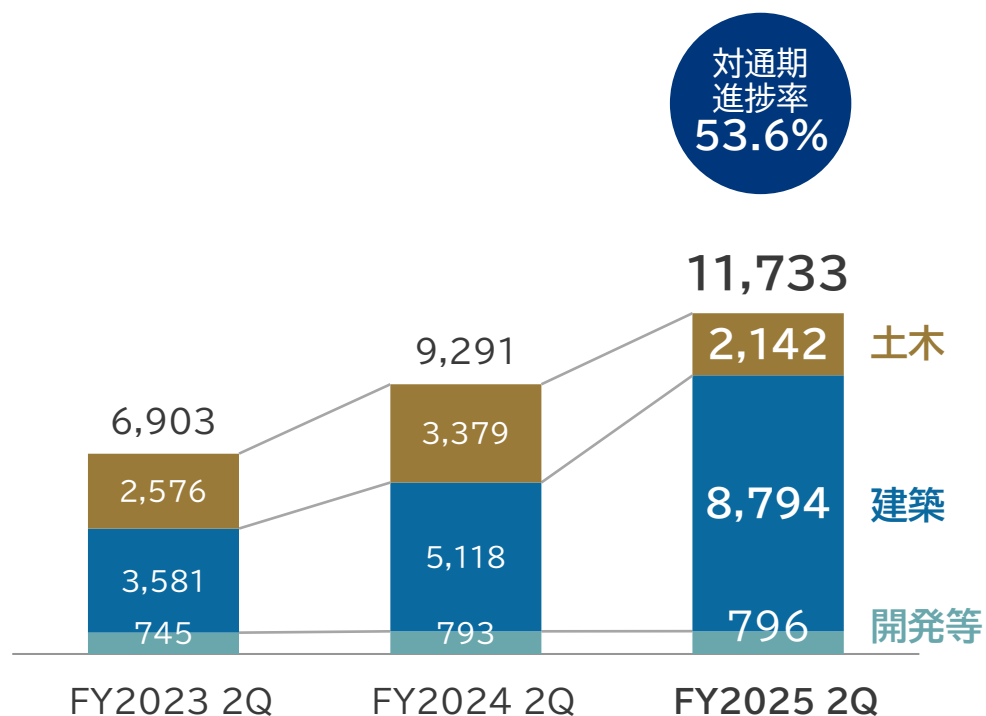
(単位:億円)	FY2024 2Q 実績	FY2025 2Q 実績	対前期	2Q進捗率 (対通期予想)	FY2025 通期 予想	対前期	対当初予想
受注高	9,291	11,733	+2,441	53.6%	21,900	▲2,475	+1,300
売上高	9,522	9,078	▲444	43.4%	20,900	▲642	+1,300
売上総利益	901 (9.5%)	1,390 (15.3%)	+489 (+5.8pt)	47.3%	2,940 (14.1%)	+628 (+3.4pt)	+670
営業利益	405 (4.3%)	812 (9.0%)	+407 (+4.7pt)	54.9%	1,480 (7.1%)	+278 (+1.5Pt)	+470
経常利益	497 (5.2%)	839 (9.2%)	+341 (+4.0pt)	55.2%	1,520 (7.3%)	+174 (+1.1Pt)	+470
親会社株主に帰属 する中間純利益	448 (4.7%)	636 (7.0%)	+187 (+2.3pt)	46.5%	1,370 (6.6%)	+131 (+0.9Pt)	+570
1株当たり 中間純利益(円)	243.99	378.30	134.31	45.8%	826.63	+143.85	+339.02
ROE	—	—	—	—	15.8%	+2.0pt	+6.3pt

## 3-1. 受注高

第2四半期実績は、単体国内建築における大型工事の受注により、対前期で**26.3%**増加  
 通期予想はM&Aに伴う連結子会社の増加を織り込み、**1,300億円**上方修正(対当初予想)

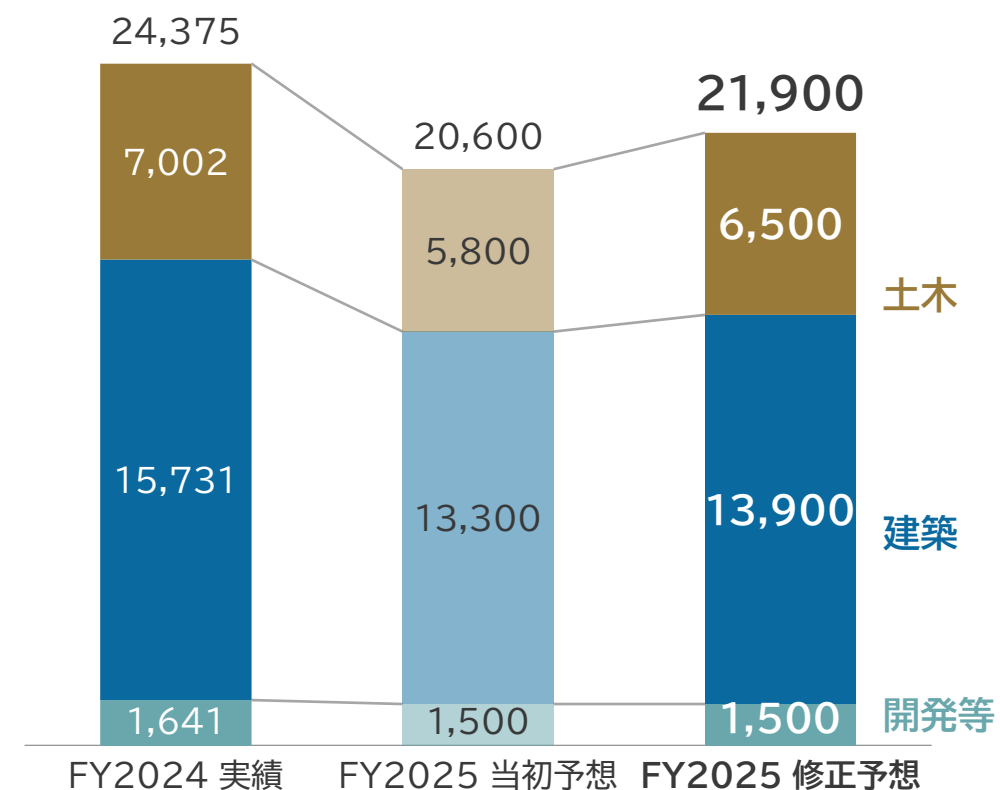
### 第2四半期実績

(億円)



### 通期予想

(億円)



# (参考)主な受注案件

土 建	受注期	区分	工事名称	施設用途	発注者	産業分類
土 木	1Q	[官公庁]	甲山浄水場更新事業 新浄水場建設事業	上下水道	姫路市	市区町村
	1Q	[民間]	電炉2工区EAF電気室基礎建設工事 他	土地造成 (工場基礎)	JFEスチール(株)	鉄鋼業
	2Q	[民間]	扇島先導エリア港湾公共化(臨港道路・心頭用地)解体工事	その他	JFEスチール(株)	鉄鋼業
	2Q	[民間]	[S-ab]エネルギー知利別貯水池取水設備設置工事	治山・治水	日本製鉄(株)	鉄鋼業
建 築	1Q	[民間]	(仮称)品川駅西口地区A地区新築計画	事務所	京浜急行電鉄(株)	運輸業
	2Q	[民間]	大通西4南地区第一種市街地再開発事業の内、 施設建築物等新築工事	店舗	大通西4南地区 市街地再開発組合	サービス業
	2Q	[民間]	白金一丁目西部中地区第一種市街地再開発事業 施設建築物等新築工事	住宅	白金一丁目西部中地区 市街地再開発組合	サービス業
	1Q	[官公庁]	千葉中央コミュニティセンター減築大規模改修工事	事務所 (事務所・水泳場・ その他(社会教育施設))	千葉市	市区町村
	1Q	[官公庁]	理化学研究所和光地区拡張用地(第1期)新研究棟建築工事	教育・研究・ 文化施設	(国研開)理化学研究所	独立行政法人

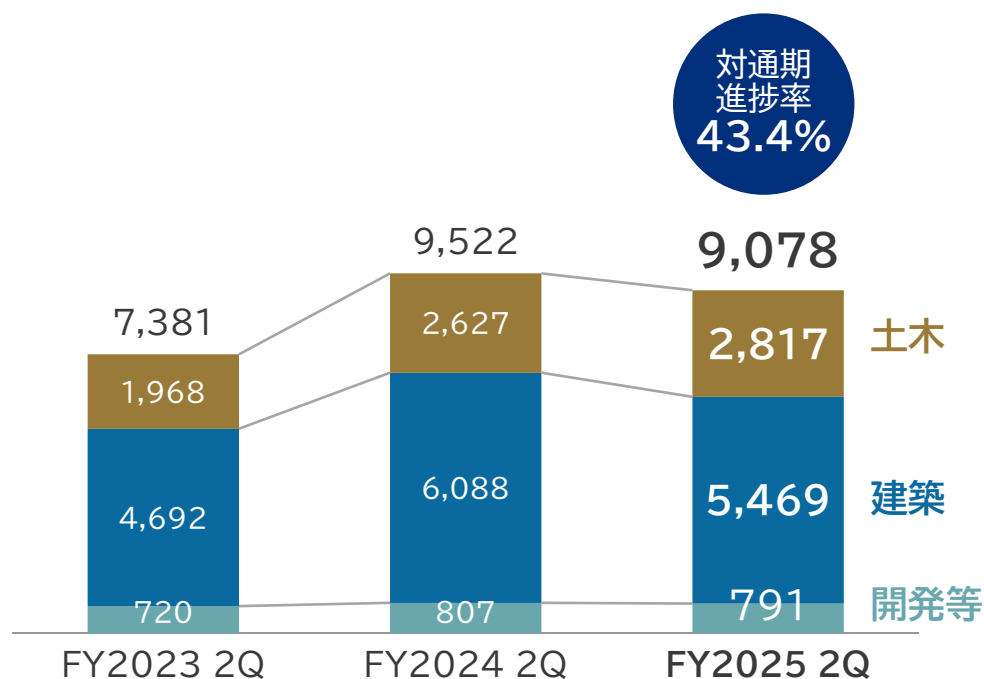


## 3-2. 売上高

第2四半期実績は、単体国内建築における大型工事の施工量が、前期と比較して減少し▲4.7%減収  
 通期予想はM&Aに伴う連結子会社の増加を織り込み、**1,300億円**上方修正(対当初予想)

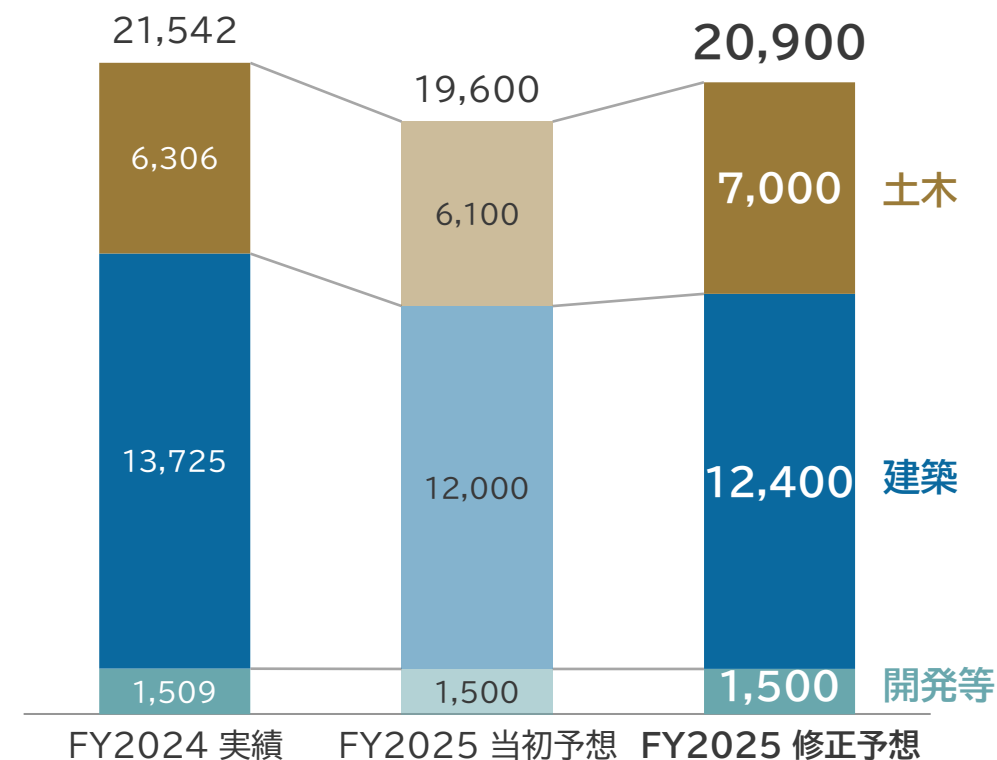
### 第2四半期実績

(億円)



### 通期予想

(億円)

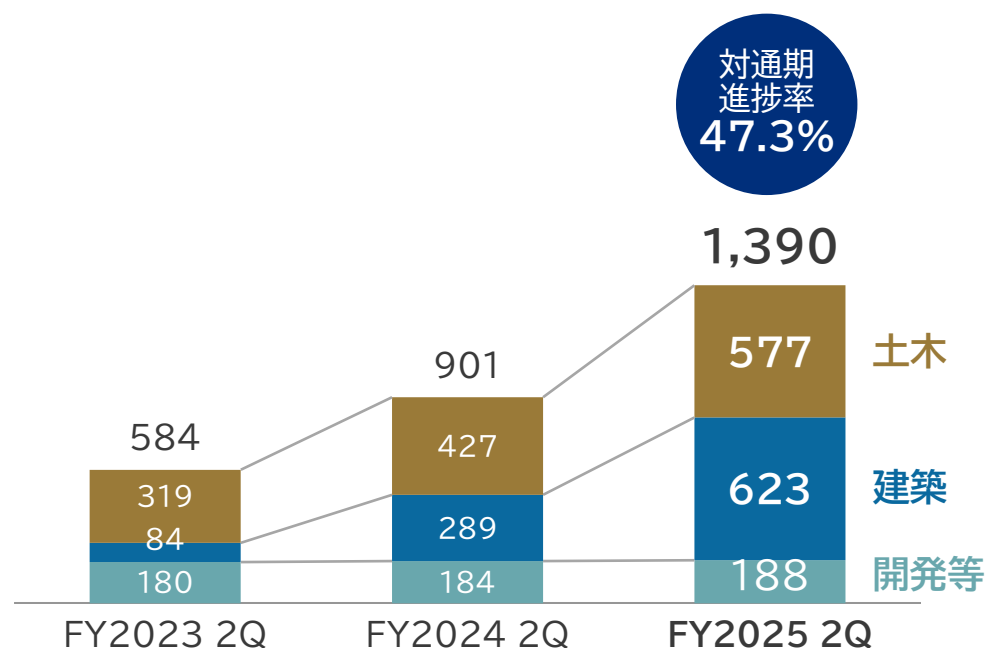


### 3-3. 売上総利益

第2四半期実績は、土木事業および建築事業において利益率が大幅に好転し、対前期で**54.3%**増加  
 通期予想は土木事業・建築事業の増収増益により**670億円**上方修正(対当初予想)

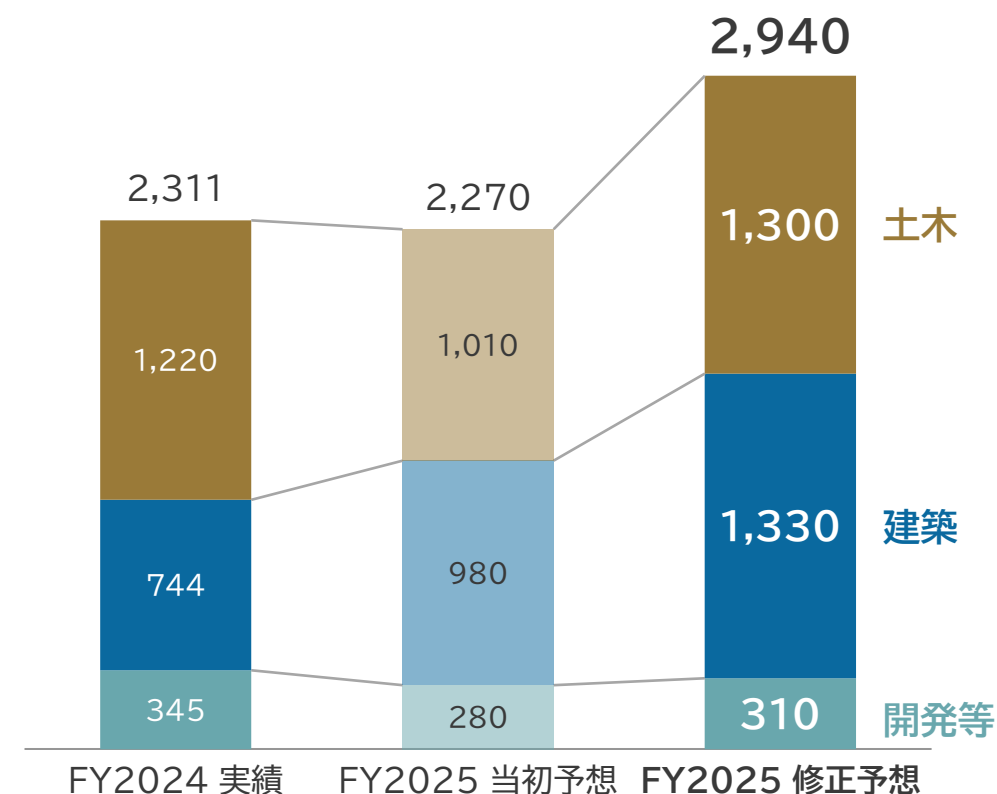
第2四半期実績

(億円)



通期予想

(億円)



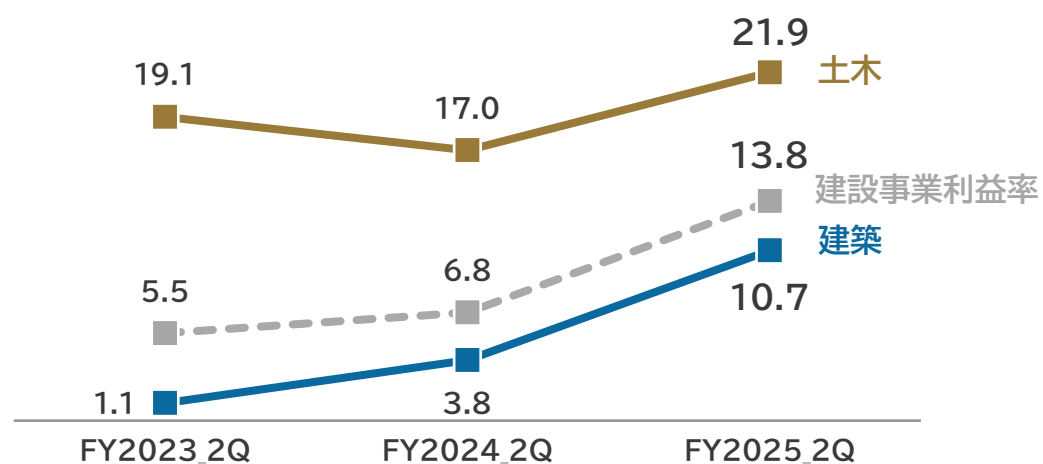


## 3-4. 単体・完成工事利益率

第2四半期実績は、**土木21.9%**(対前期+4.9pt)・**建築10.7%**(対前期+6.9pt)と対前期で好転  
 通期予想は、**土木21.0%**(対当初予想+2.8pt)、**建築10.0%**(当初予想+2.7pt)と当初予想より好転

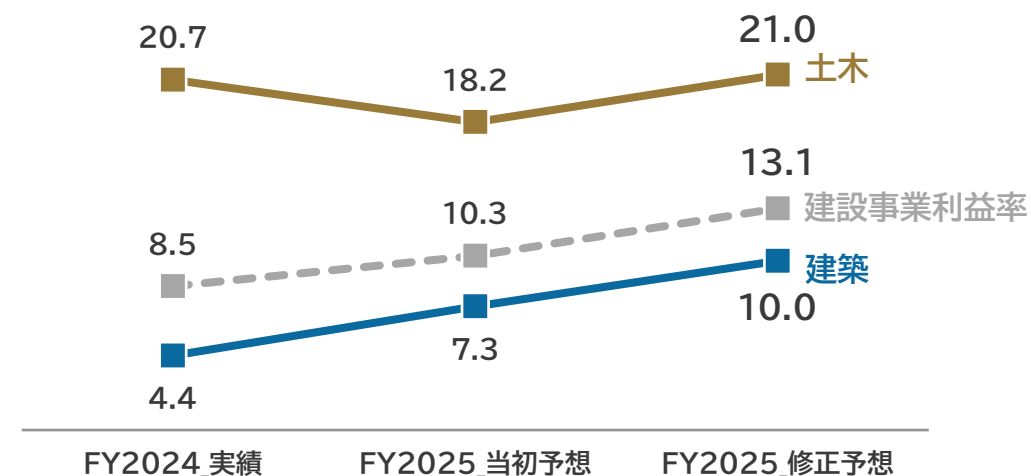
第2四半期実績

(%)



通期予想

(%)



工事損失引当金の当期増減内訳 (億円)

	2025年 3月末	第2四半期増減			2025年 9月末
			繰入	取崩	
土木	99	2	11	▲9	101
建築	924	▲114	17	▲131	810
合計	1,023	▲112	28	▲140	911

## 3-5. 販売費および一般管理費(販管費)

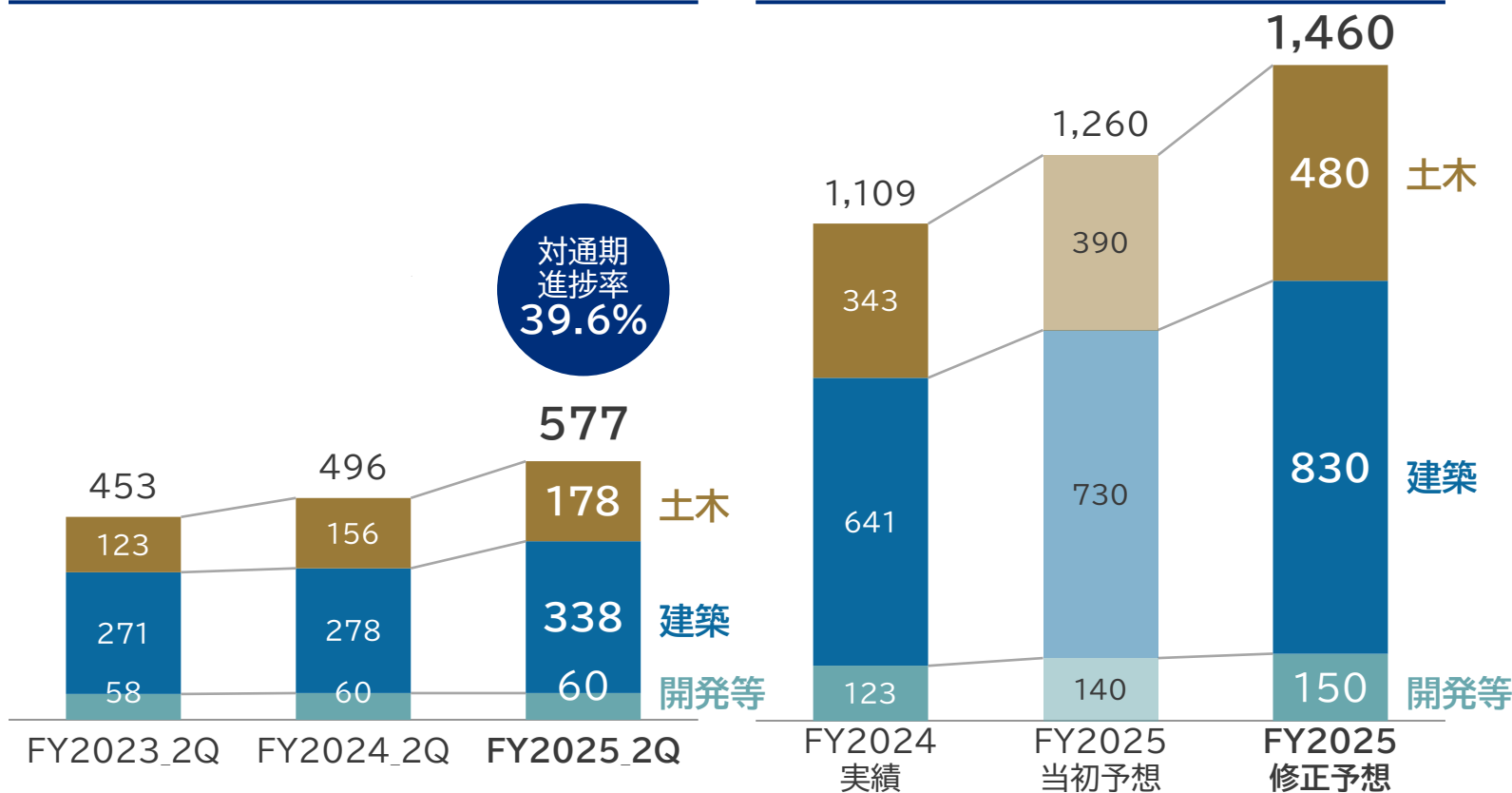
第2四半期実績は人的資本投資が進んだことから対前期で**16.4%**増加  
 通期予想はM&Aに伴う連結子会社の増加を織込み、**200億円**の支出増（対当初予想）

第2四半期実績

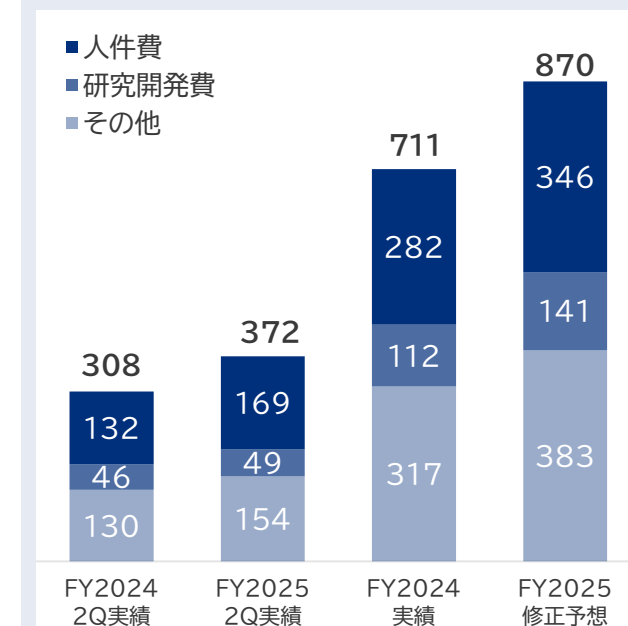
(億円)

通期予想

(億円)



販管費内訳(単体)

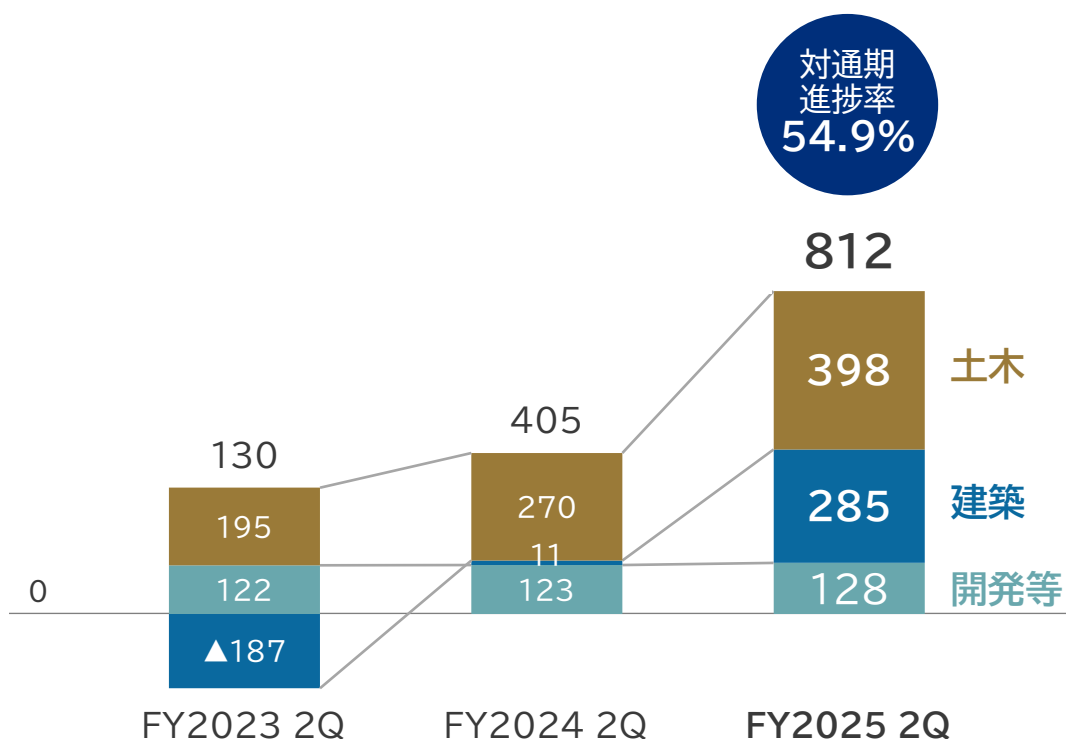


## 3-6. 営業利益

第2四半期実績は、販管費の増加を売上総利益の増益が上回り、営業利益は対前期で**100.5%**増加  
 通期予想は、売上総利益の上方修正が、販管費の支出増を吸収し**470億円**上方修正(対当初予想)

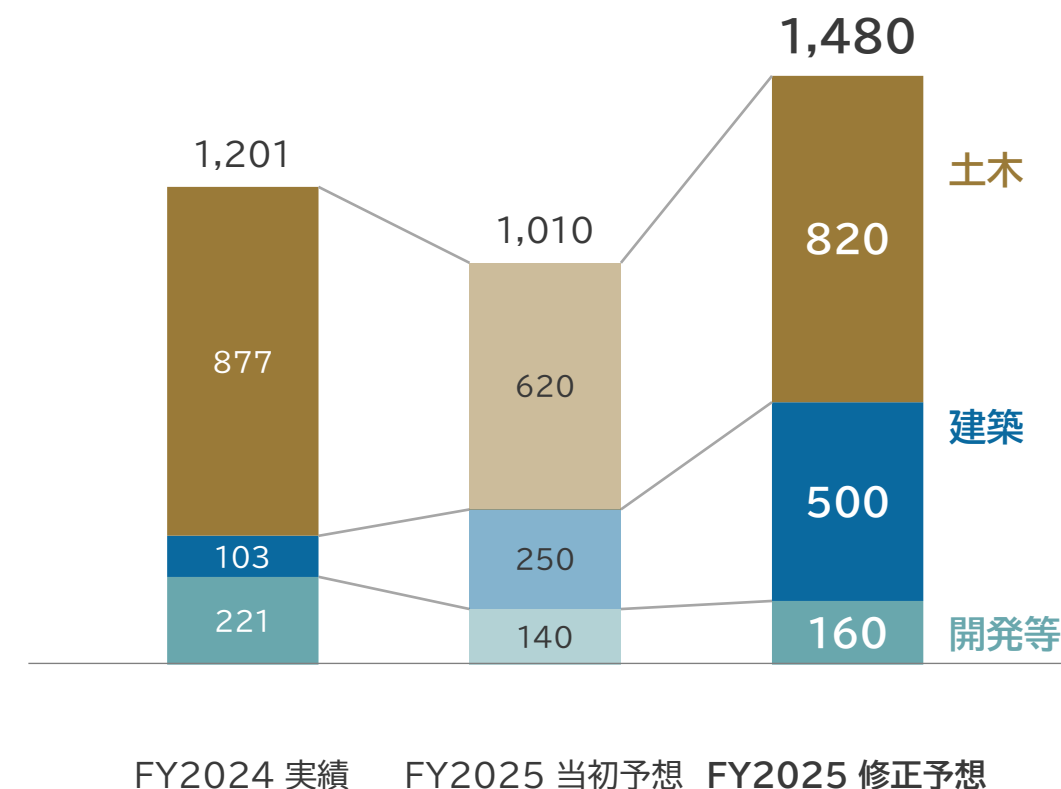
第2四半期実績

(億円)



通期予想

(億円)

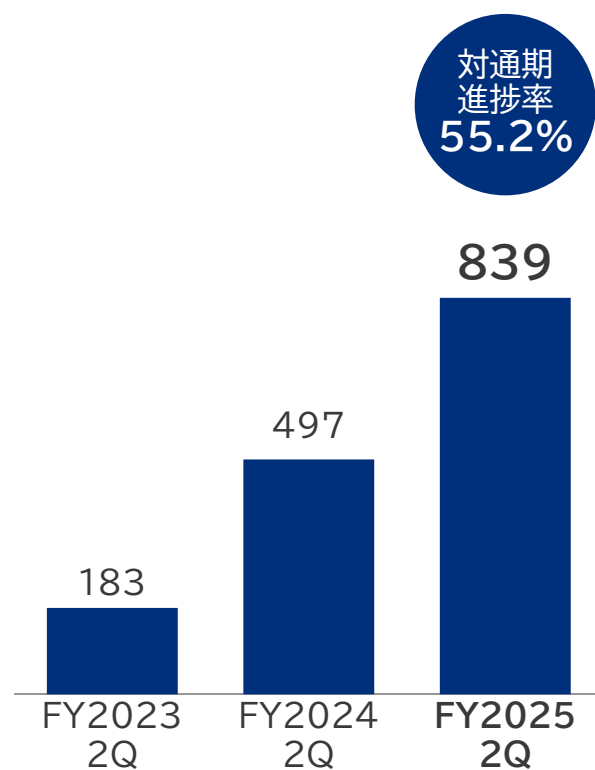


## 3-7. 経常利益

第2四半期実績は、営業利益の増加に伴い、対前期で**68.7%**増加  
 通期予想は、営業利益の上方修正に伴い**470億円**上方修正(対当初予想)

第2四半期実績

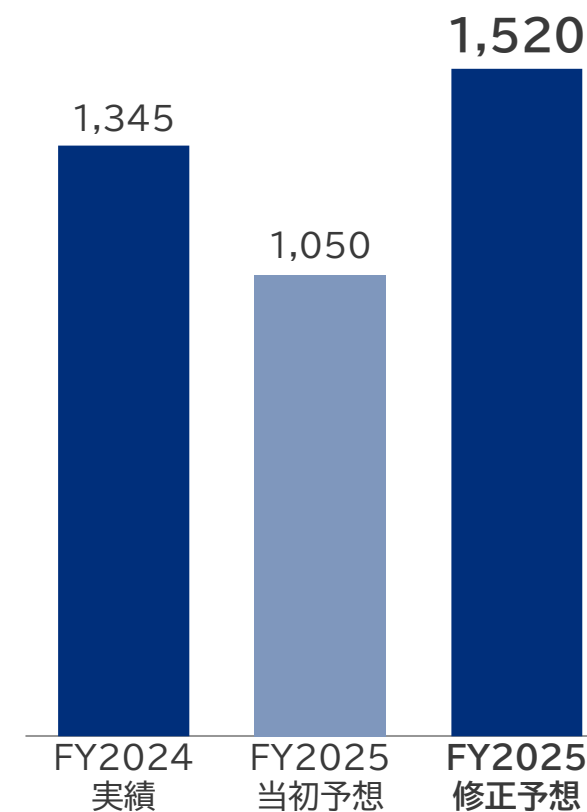
(億円)



対前期増減要因	
内訳	対前期
営業利益	+407
営業外損益	▲66
持分法利益	▲67
金融収支	▲6
為替差損益	5
その他	2

通期予想

(億円)



対前期増減要因	
内訳	対前期
営業利益	+278
営業外損益	▲103
持分法利益	▲60
金融収支	▲27
外国税	▲13
為替差損益	▲5
その他	2



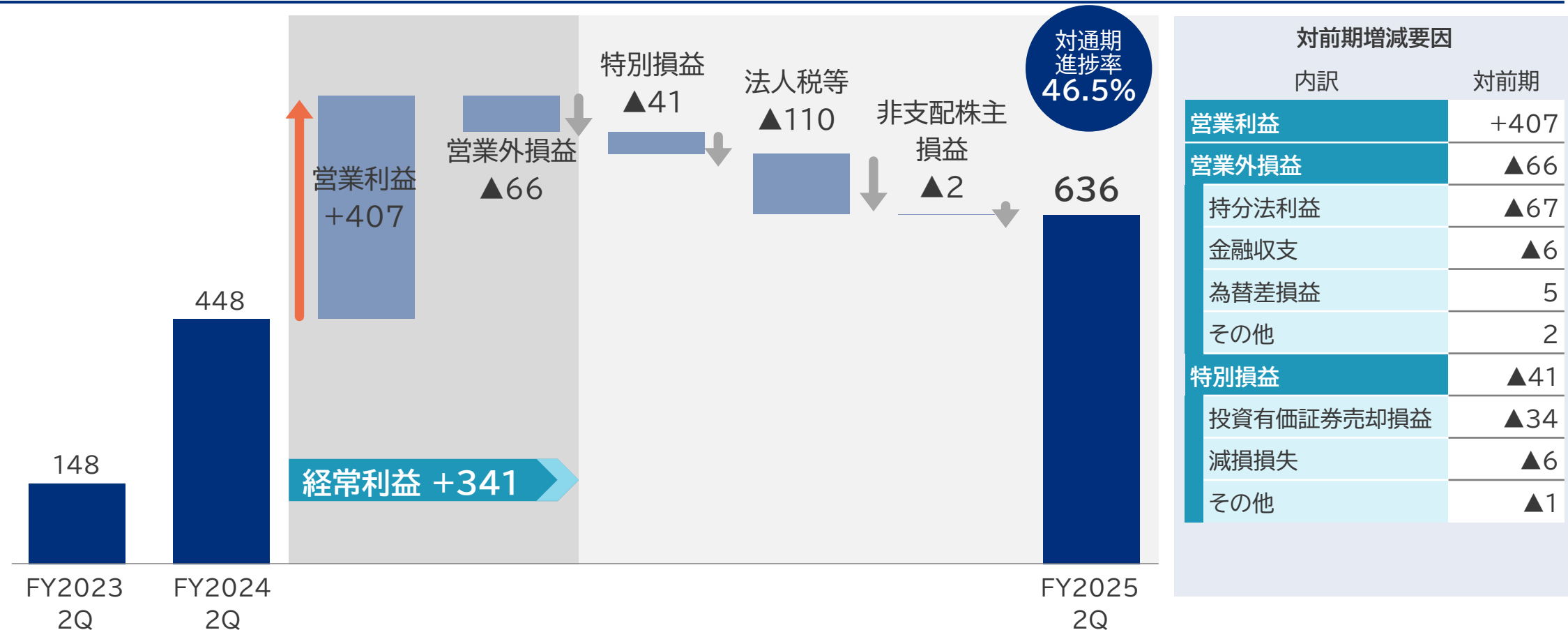
## 3-8. 親会社株主に帰属する中間純利益【第2四半期】

第2四半期実績は、営業利益の増加に伴い、対前期で**41.9%**増加

- 単体土木事業・建築事業の採算性改善による営業利益の好転が貢献

第2四半期実績(対前期)

(億円)



## 3-9. 親会社株主に帰属する当期純利益 【通期予想】

通期予想は、**570億円**上方修正(対当初予想)

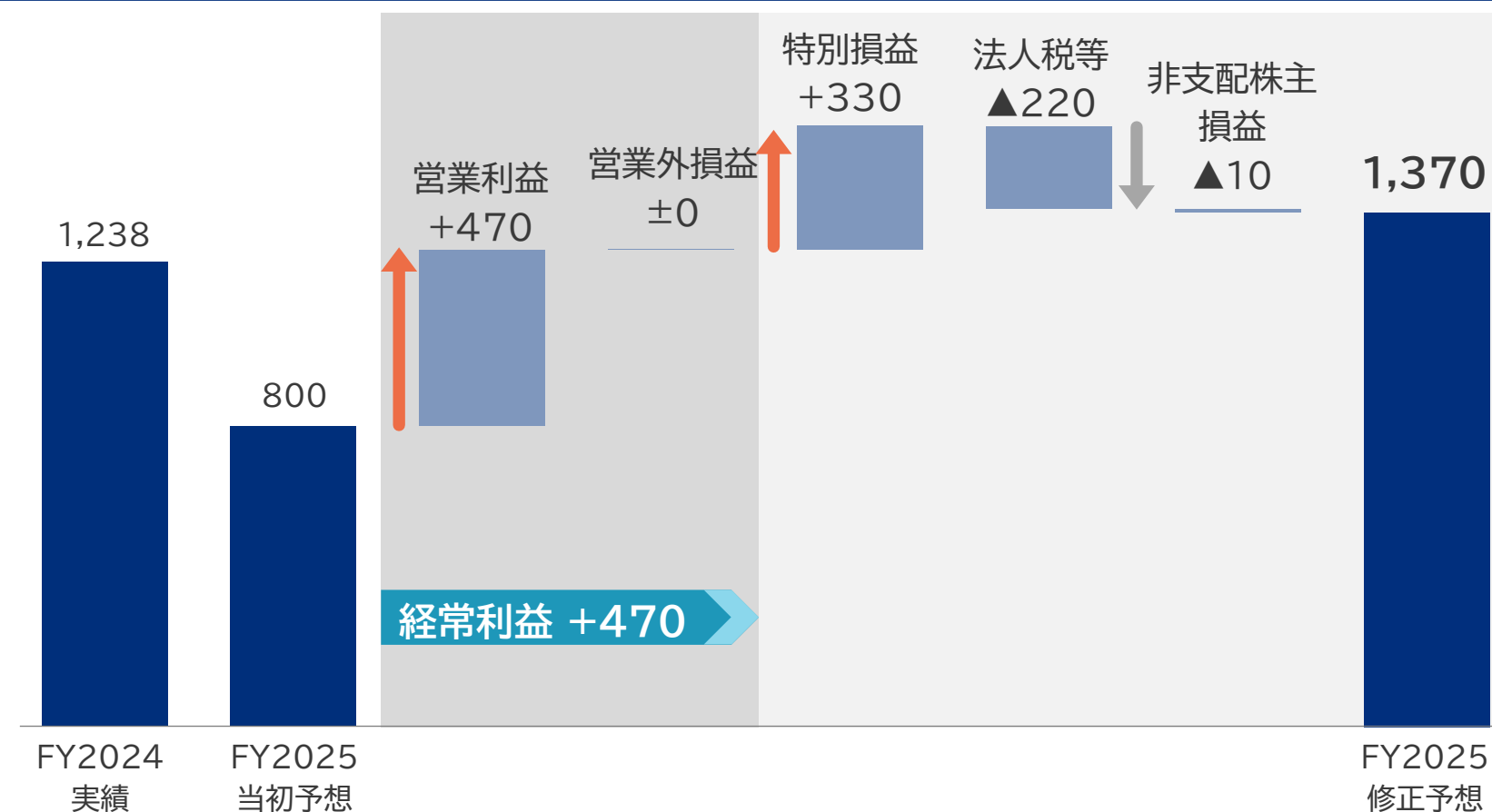
- 政策保有株式の縮減の進捗による投資有価証券売却益の増加で特別損益が好転
- 対前期では、営業利益は+278億円となったが、前期に負ののれんの一括償却があった反動により全体では+131億円

通期予想(対当初予想)

(億円)

通期予想(対前期実績)

(億円)



対前期増減要因	
内訳	対前期
営業利益	+278
営業外損益	▲103
持分法利益	▲60
金融収支	▲27
外国税	▲13
為替差損益	▲5
その他	2
特別損益	+62
関連事業損失	30
投資有価証券売却損益	13
その他	18

## 3-10. グループ会社業績(連単差)

### セグメント別内訳

(億円)

	受注				売上				売上総利益			
	第2四半期 実績	対前期	対通期 進捗率	通期予想	第2四半期 実績	対前期	対通期 進捗率	通期予想	第2四半期 実績	対前期	対通期 進捗率	通期予想
当社	8,902	2,443	58.6%	15,200	6,507	▲634	45.5%	14,300	943	405	48.1%	1,960
土木系 子会社	1,215	▲44	40.5%	3,000	1,050	45	35.0%	3,000	189	38	41.1%	460
建築系 子会社	977	66	39.1%	2,500	888	159	37.0%	2,400	134	46	40.6%	330
開発系 子会社 (その他含む)	637	▲23	53.1%	1,200	632	▲15	52.7%	1,200	122	▲1	64.2%	190
グループ 計	11,733	2,441	53.6%	21,900	9,078	▲444	43.4%	20,900	1,390	489	47.3%	2,940

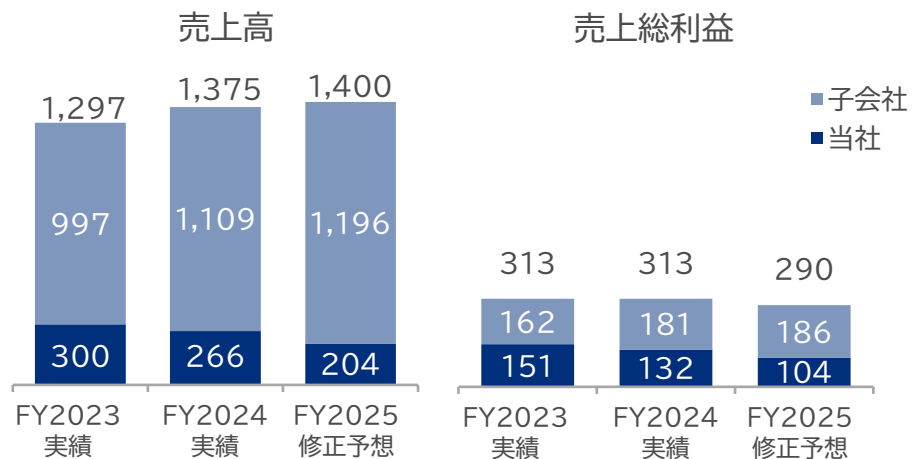
### 主なグループ企業

土木	建築	開発・その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大成ロテック</li> <li>■ 成和リニューアルワークス</li> <li>■ ピーエス・コンストラクション</li> <li>■ 東洋建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大成ユーレック</li> <li>■ 大成建設ハウジング</li> <li>■ ピーエス・コンストラクション</li> <li>■ 東洋建設</li> <li>■ 大成設備</li> <li>■ 佐藤秀</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大成有楽不動産</li> <li>■ TAISEI USA</li> </ul>

## 3-11. 開発事業の概況

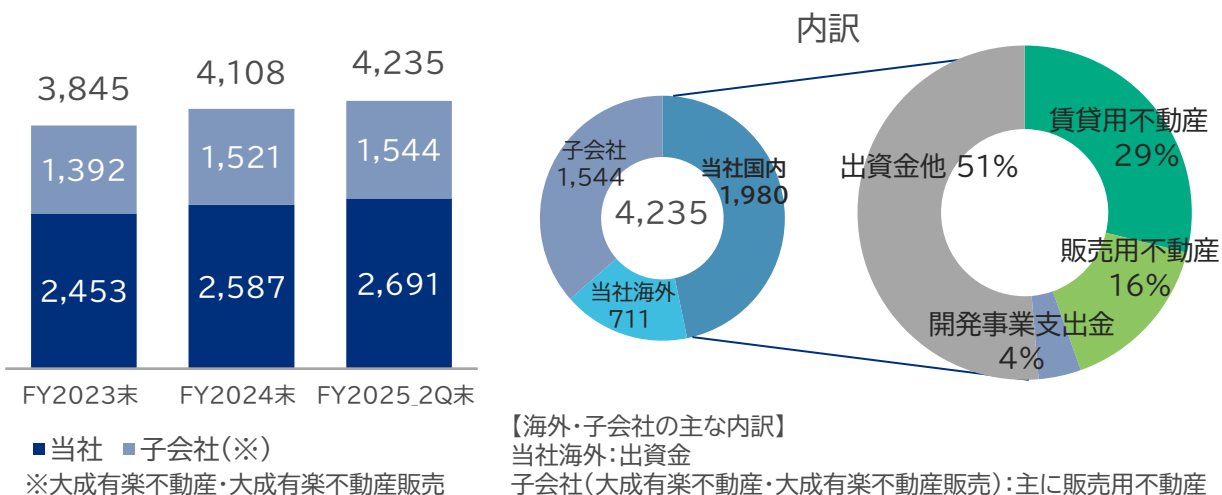
### 開発事業業績(連結)

(億円)

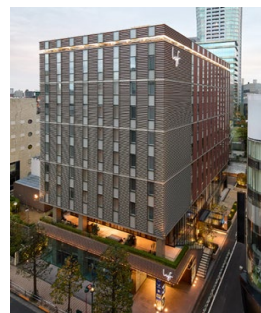


### グループ開発事業投資残高

(億円)



### 主な開発事業投資



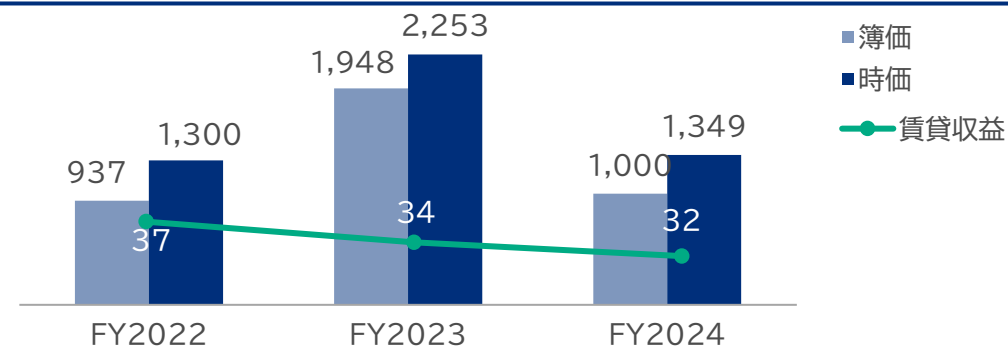
【新規物件】(ホテル)  
lyf渋谷東京  
東京都渋谷区



【継続】(オフィス・ホテル・学校)  
(仮称)本町4丁目プロジェクト  
大阪府中央区

### 賃貸等不動産の期末残高(連結)

(億円)



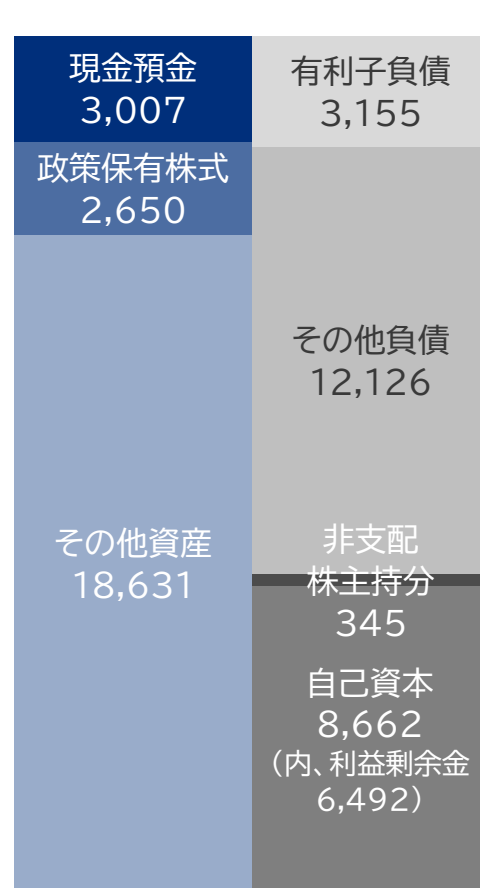
注) 開発事業本部以外の所管を含むためグループ開発事業投資残高の賃貸用不動産とは異なる



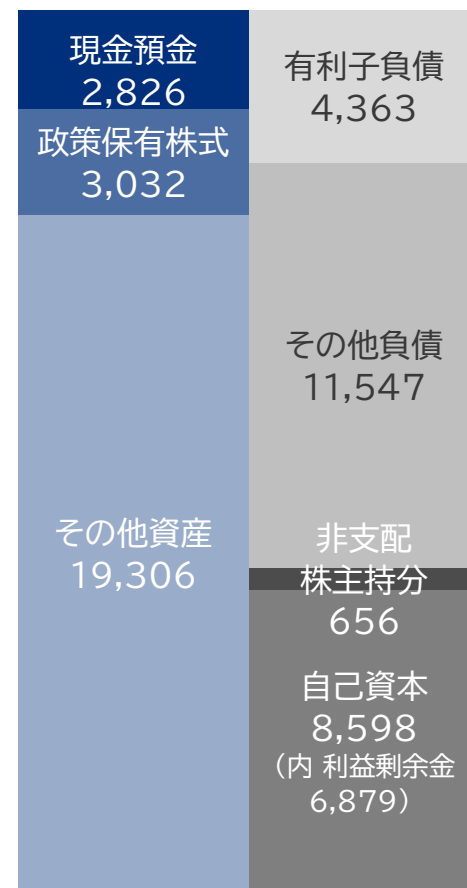
## 3-12. バランスシート・キャッシュフローほか

### バランスシート(BS)

(億円)



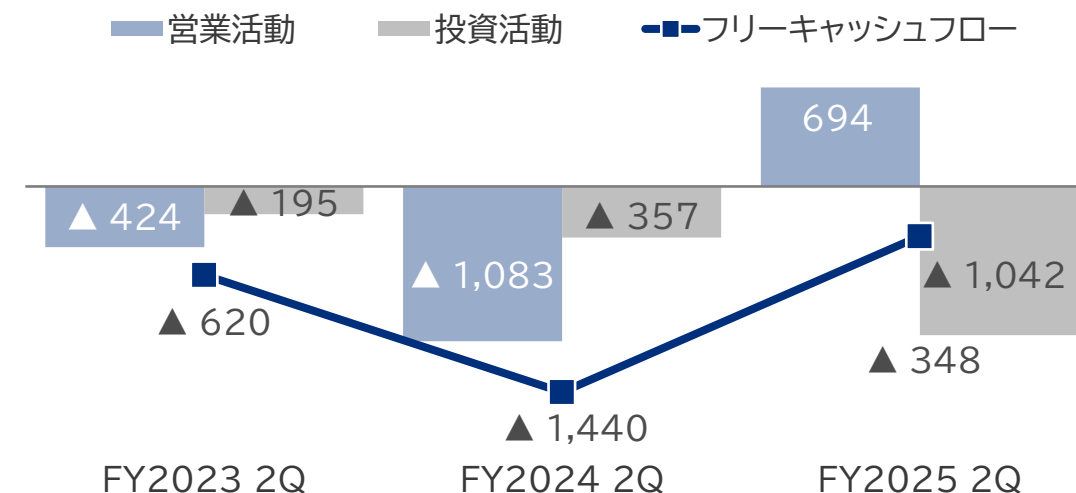
【総資産:24,288億円】  
FY2024末



【総資産:25,164億円】  
FY2025\_2Q末

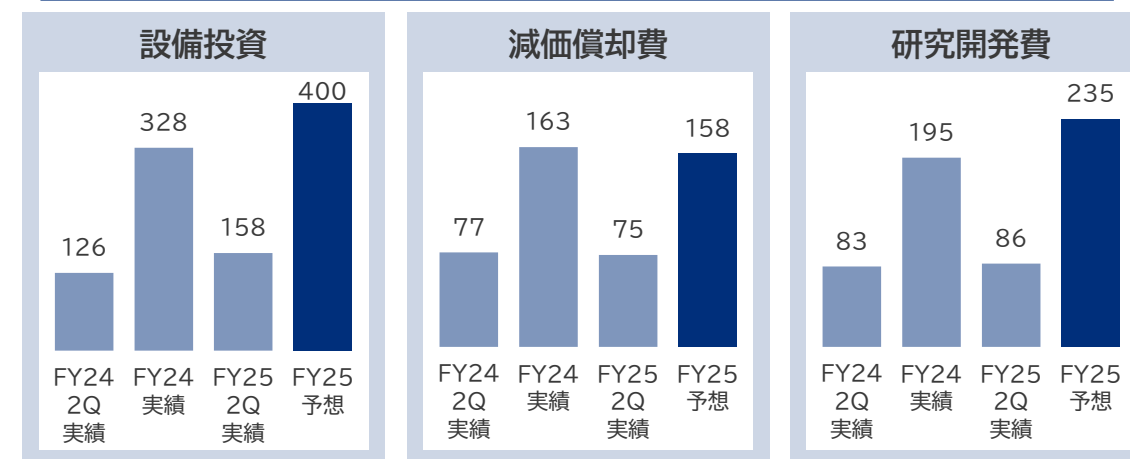
### キャッシュ・フロー(CF)

(億円)



### 【参考】設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)



# 財務政策

- 4-1.財務数値目標
- 4-2.PBR向上に向けた取り組み内容
- 4-3.政策保有株式の縮減
- 4-4.BSマネジメント
- 4-5.資金配分方針
- 4-6.株主還元の取り組み
- 4-7.株主還元の方針(ロードマップ)
- 4-8. IR・SR体制の整備

## 4-1. 財務数値目標

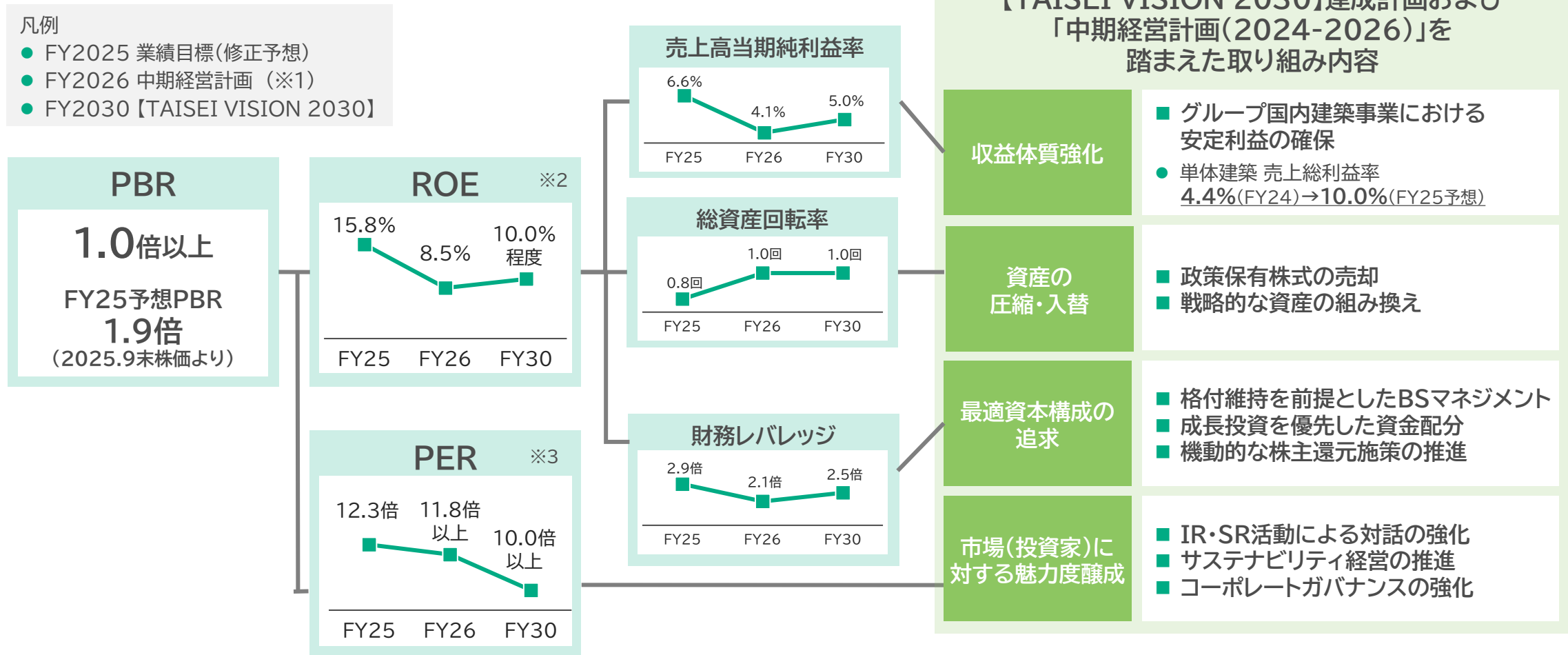
		2024年度実績	2025年度目標	【中期経営計画】 2026年度 ※1	【TAISEI VISION 2030】 2030年度
収益性	当期純利益	1,238億円	1,370億円	800億円	1,500億円
	ROE	13.8%	15.8%	8.5%※2	10%程度
BS マネジメント	政策保有株	対純資産比 29.4%	2026年度末までに 対純資産比 20%未満		
	自己資本比率	35.7%	34.1%	40%程度	40%程度
	ネットD/Eレシオ	0.02倍	0.4倍	0.4倍以下	0.4倍以下
株主還元	配当性向	30.8%	30.2%	下限付き配当性向30%	検討課題
	総還元性向	成長投資・株主配当後、余剰資金が生じた場合に実施（3か年74.0%）			
成長投資	成長投資	<div> <div>(3か年) 1,700億円</div> <div></div> </div>			
	事業投資	<div> <div>(3か年) 1,200億円</div> <div>成長投資 3,500億円</div> </div>			
	基盤維持投資	<div> <div>(3か年) 600億円</div> <div></div> </div>			

※1 2026年度は中期経営計画策定時(2024年5月)

※2 政策保有株式売却が目標通りに進捗した場合は10%程度

## 4-2. PBR向上に向けた取り組み内容

- 当社グループの企業価値向上に資する基盤整備に取り組み、ROE、PER向上に向けた施策の推進によりPBRを改善する



※1 2026年度は中期経営計画策定時(2024年5月)

※2 2026年度:政策保有株式の売却が目標通りに進捗した場合は10%程度

※3 2026年度・2030年度のPERは、PBRを1倍と設定したうえで、ROEからの逆算により算出



## 4-3. 政策保有株式の縮減

PBR向上に向けた取り組み【資産の圧縮・入替】

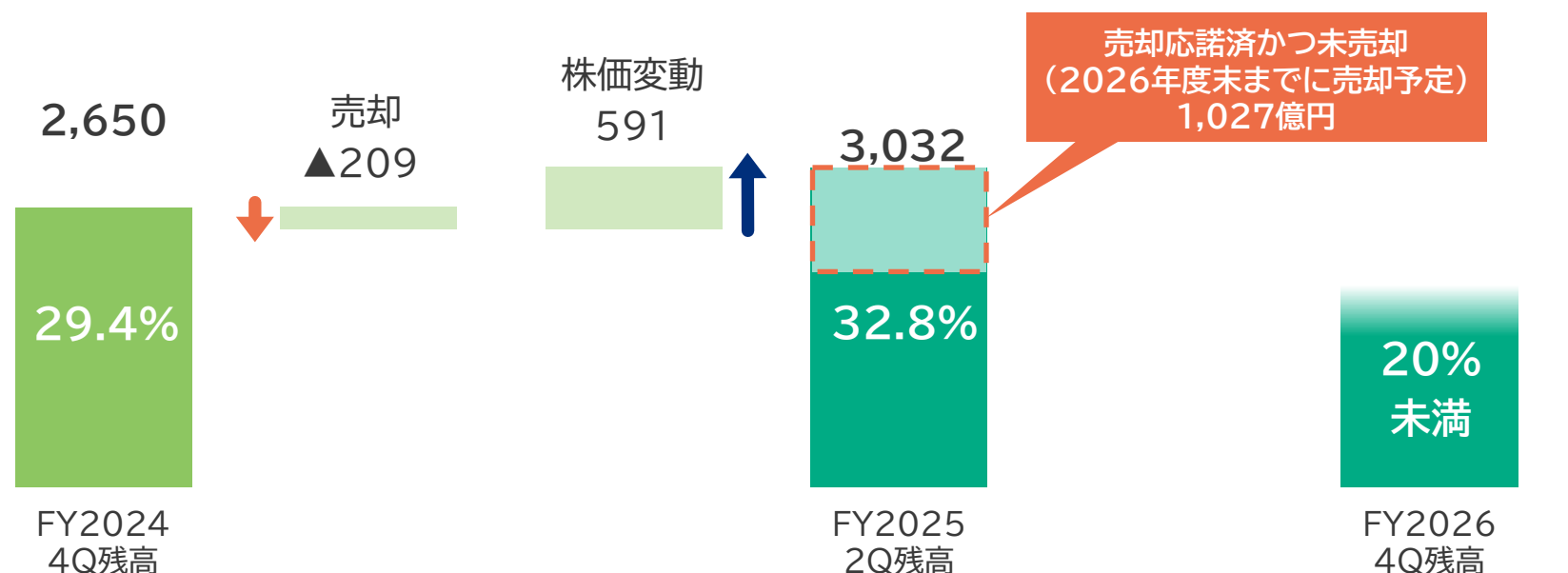
- 9月末時点の政策保有株式の保有残高は3,032億円となり、連結純資産に占める割合は32.8%
- 今後、株価や連結純資産額が変動した場合においても、縮減目標を確実に達成すべく、適宜追加売却等を検討・実施する

### 縮減目標(2023年12月公表)

2026年度末までに連結純資産額の20%未満を目指す

連結純資産に対する保有残高の推移

(億円)



### FY2025 2Q 残高内訳

上場株式	2,469億円
みなし保有株式	432億円
非上場株式	131億円
合計	3,032億円

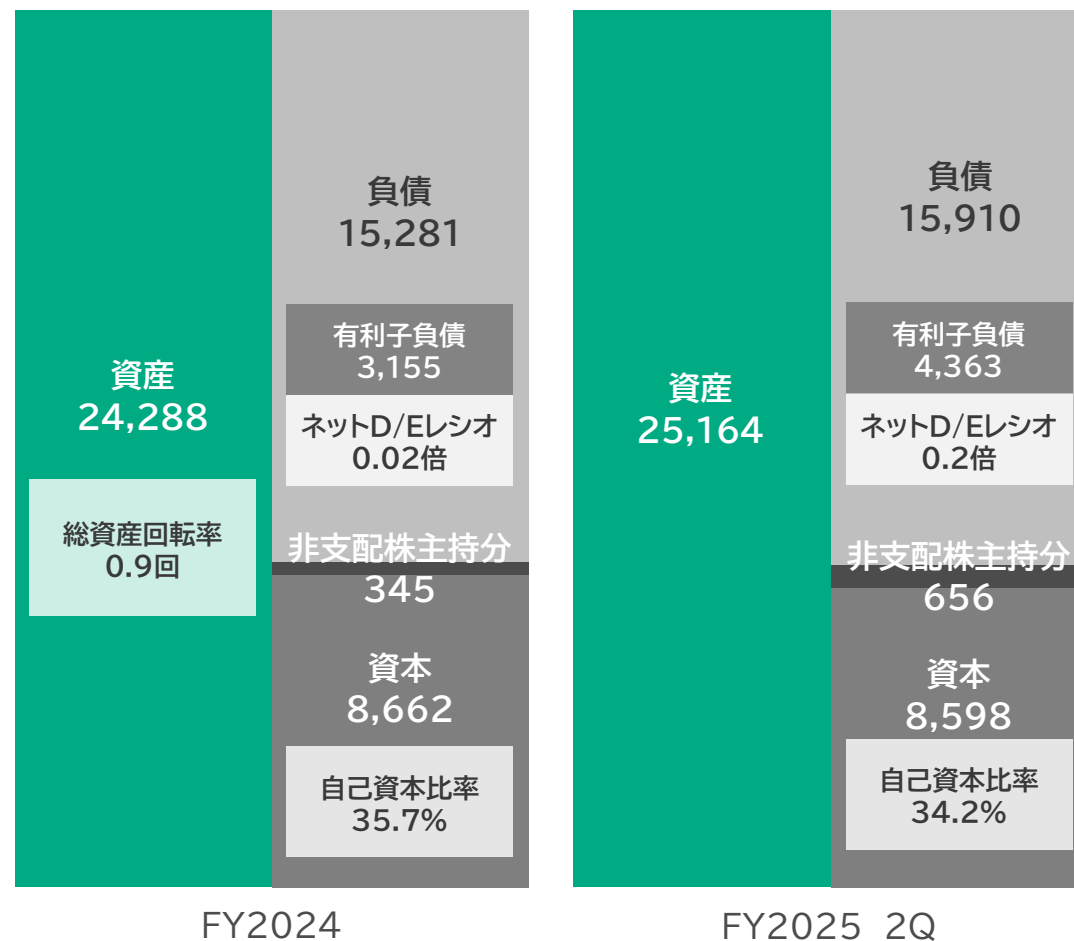
## 4-4. BSマネジメント

PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

### ■ 格付け維持を前提としたBSマネジメント

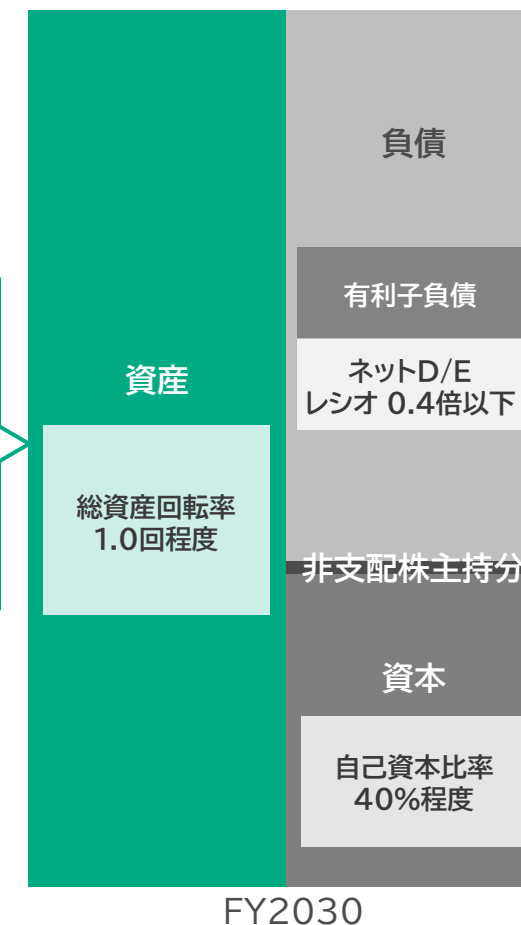
#### 資本構成(実績)

(億円)



#### 最適資本構成イメージ (【TAISEI VISION 2030】公表値) (億円)

- 資産の入替・圧縮**
- 政策保有株式売却  
(2026年度末迄に  
対連結純資産比20%未満)
  - 統合リスク管理に基づく  
総量規制と戦略的な資産の  
組み換え



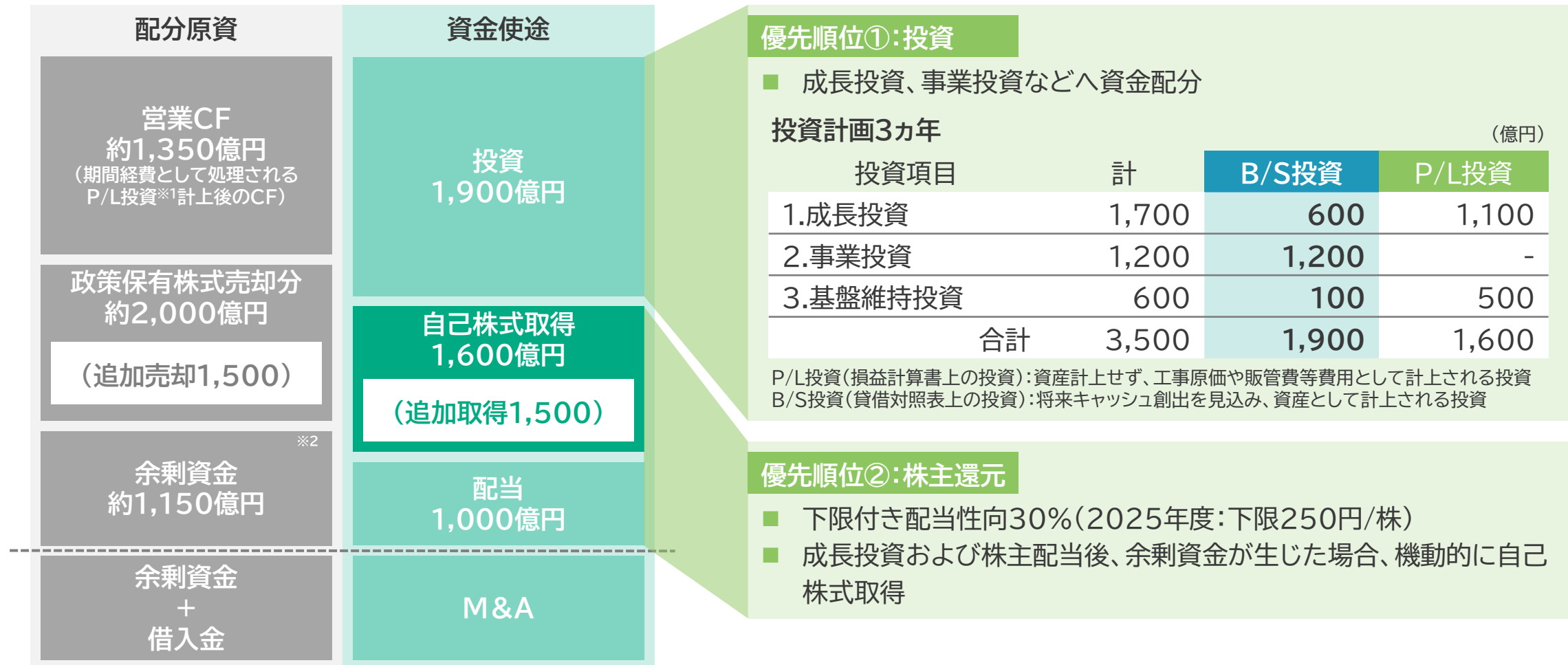
#### 資金調達

- 財務安全性の  
確保と資本効率  
向上の両面を  
意識

## 4-5. 資金配分方針

PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

- 成長投資を優先とする2024年～2026年の3年間の配分方針を策定



※1 1,600億円

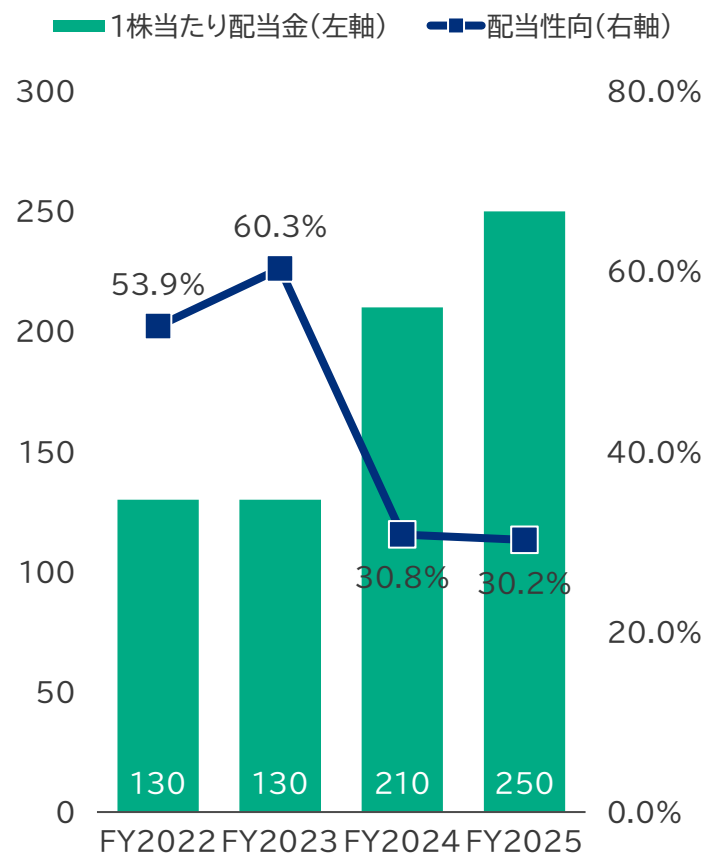
※2 月商1ヶ月相当を超える現預金

## 4-6. 株主還元の取り組み

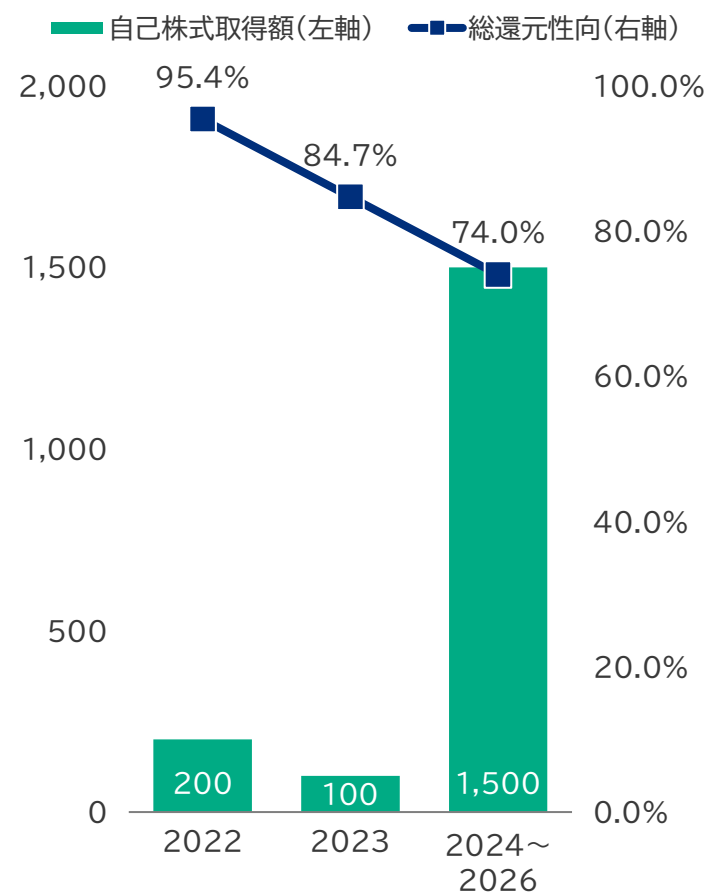
PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

- 2025年度より、公表目標に対し配当性向30%を下限とする「下限付き配当性向」を導入
- 当期純利益予想800億円から1,370億円への上方修正に伴い、年間配当を250円に増配(中間125円・期末125円)

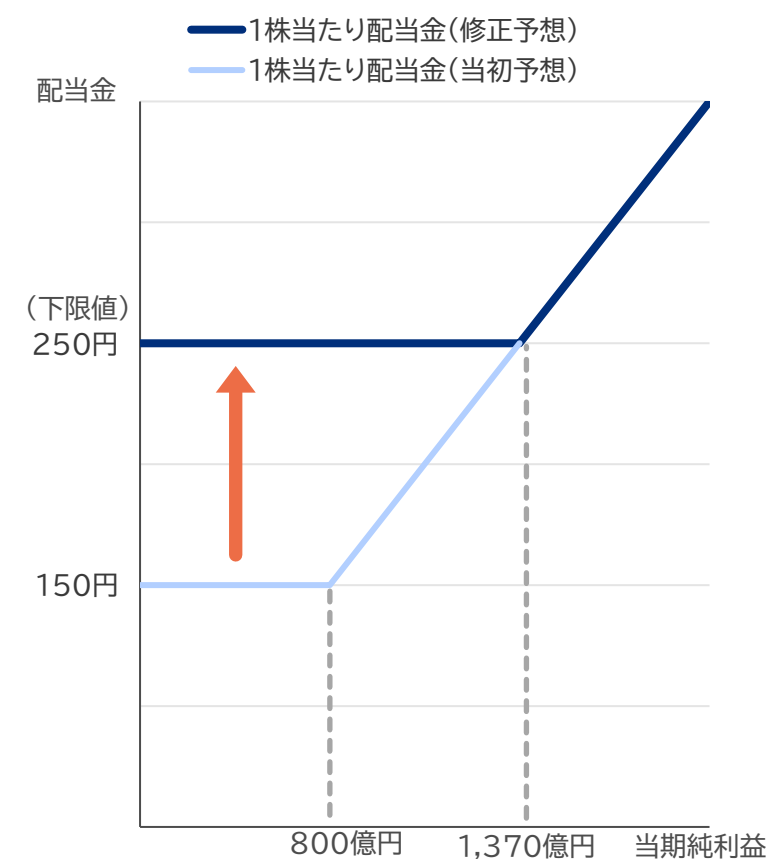
配当／株・配当性向(通期) (円)



自己株式取得(通期) (億円)



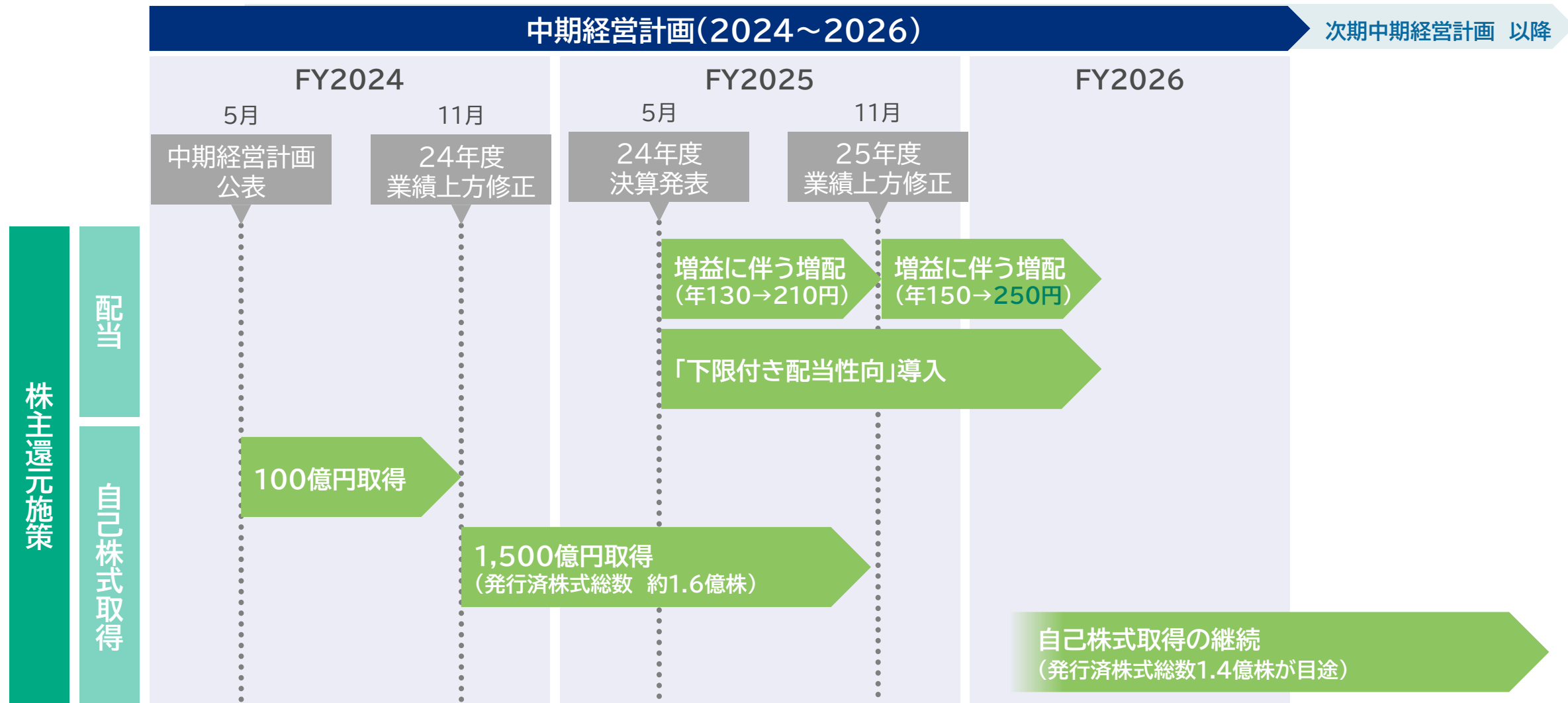
下限付き配当性向(イメージ)



## 4-7. 株主還元の方針(ロードマップ)

PBR向上に向けた取り組み【最適資本構成の追求】

- 将来的に、発行済株式総数を概ね1.4億株まで縮減。縮減見通しがたった段階で配当重視の還元施策を導入予定





## 4-8. IR・SR体制の整備

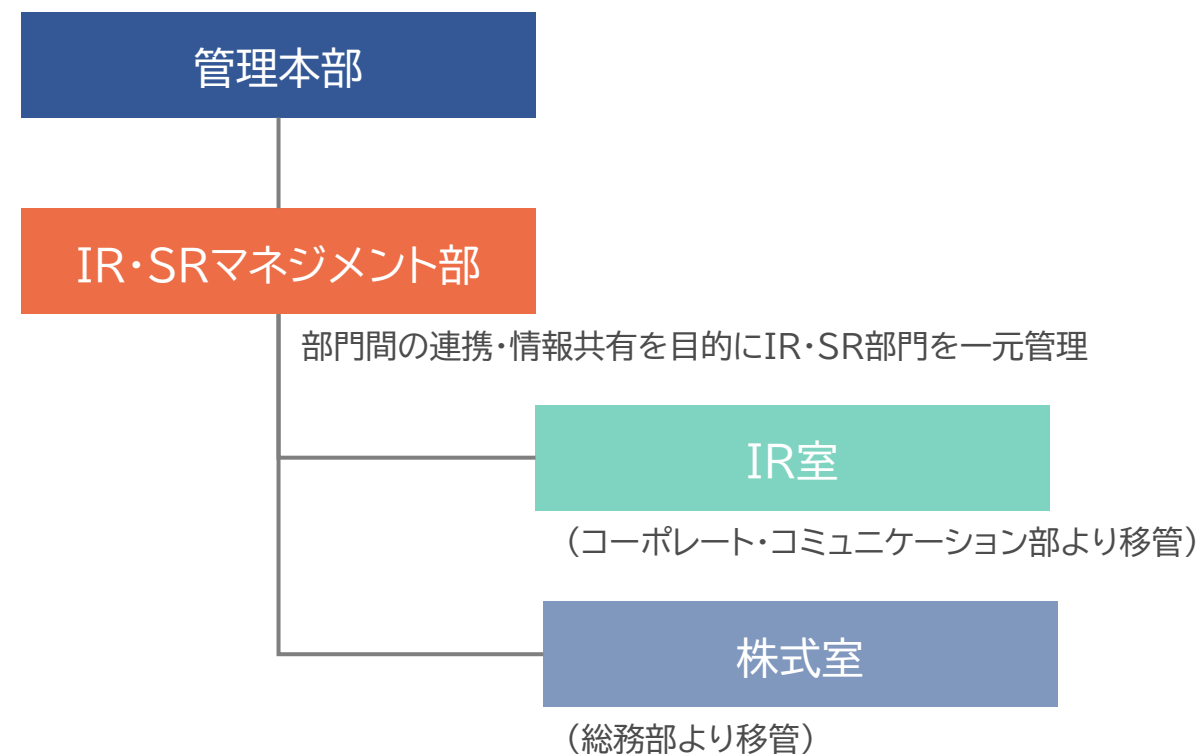
PBR向上に向けた取り組み【市場に対する魅力度醸成】

- IR・SR活動の強化のため、専門部署としてIR・SRマネジメント部を新設(2025年9月)
- IR・SR部門の密接な連携により、株主・投資家との対話・情報開示体制や対話内容を経営層にフィードバックする体制の更なる充実を図り、株主・投資家との双方向のコミュニケーションを通じ、信頼関係の構築と当社の理解促進に努める

従来



2025年9月より



# 【TAISEI VISION 2030】達成計画 ・中期経営計画(2024-2026)

---

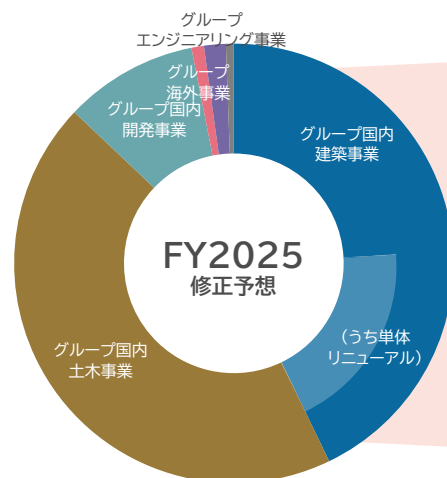
■ 5-1. 【TAISEI VISION 2030】達成計画の進捗

■ 5-2. 投資計画の進捗

# 5-1.【TAISEI VISION 2030】達成計画の進捗

## 【TAISEI VISION 2030】達成計画 主な施策の進捗(概要)

セグメント別売上総利益  
(イメージ)



親会社株主に帰属する  
純利益  
**1,370億円**

### グループ国内建築事業

- 適正工期・適正価格の確保に向けた取り組み等により、**受注時利益率が向上**
- 足下の繁忙は継続しており、消化体制の拡充と生産性向上を図る

### グループ国内土木事業

- 堅調な需要を背景に手持工事は豊富。引き続き消化体制の拡充を図り、**業界トップの堅持**を目指す
- 中長期的な事業環境変化への対応を見据え、新たな事業への取組を実施中

### グループ国内開発事業

- 手持案件の売却は順調。投資機会を捉え、**資金効率を意識した投資・回収**による収益獲得を目指す
- 新機軸を求め、ホテル等専門性の高いアセットへの投資やコンセッション、デジタルツイン事業等に取組中

### グループ海外事業

- 安定した収益基盤の確立に向けて現地化を推進
- インドに加え、**台湾の現地法人化**を実施中

### グループエンジニアリング事業

- 医薬品・半導体分野を中心に堅調**
- 優位性を強く発揮できる分野として、社内リソース拡充や社外との協業等により体制強化を推進

### 人的資本

- 多様な人財の採用や新たな人財育成計画を展開
- 社員一人ひとりが活躍できる環境整備に向け、人的資本投資の一環として、**人事制度を大幅改定**  
・等級制度/評価制度/給与制度見直し・定年延長  
・勤務地選択制度/転動手当の新設 等

### 技術開発

- 「T-eConcrete®/Carbon-Recycle」※1を使用した床仕上げ材を、大阪・関西万博パビリオンに提供
- 完成した**グループ次世代技術研究所**も活用し、社会や顧客の課題解決に向けた革新的な技術開発を加速

### サステナビリティ

- 当社グループの電力使用量を賄う電源(220GWh)の確保**に向け、再エネ電源の保有を推進  
・宮リバー度会ソーラーパーク発電所(運転開始)  
・石狩地域バイオマス発電所(2026年稼働予定)

### DX

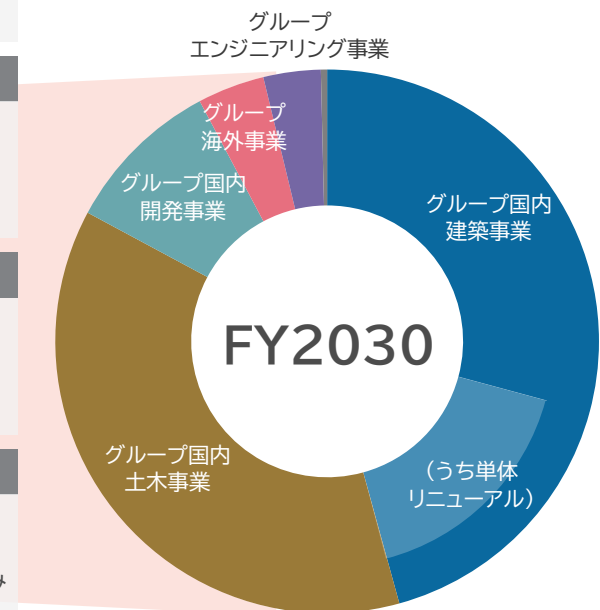
- 最先端BIMや**省人・無人化技術**(重機・ロボット自動制御や遠隔操作)の**導入現場が拡大**
- 生産性向上や提供サービスの抜本変革に向けた取り組みを一層加速

### M&A

- 新たに当社グループに参画した会社との**シナジー発揮**に注力するとともに、業界再編や新たな成長基盤の構築に向け、**引き続き機会を探る**

※排気ガス等から回収したCO<sub>2</sub>を炭酸カルシウムとして固定することで、CO<sub>2</sub>の収支をマイナス(排出量<固定量)とするコンクリート

セグメント別売上総利益  
(イメージ)

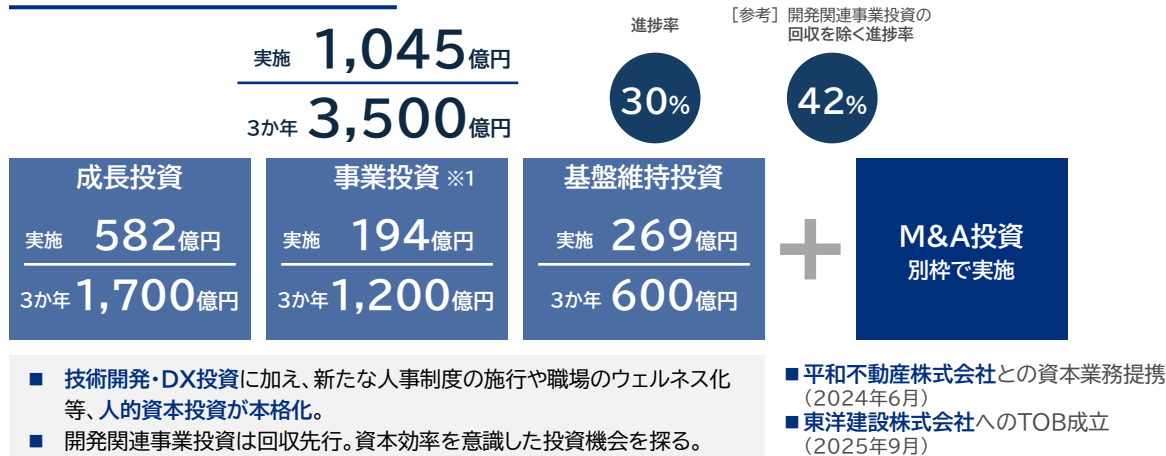


親会社株主に帰属する  
純利益  
**1,500億円程度**  
ROE  
**10%程度**



## 5-2. 投資計画の進捗

### 3か年投資計画・進捗



※1 事業投資：3か年1,200億円には、開発関連事業投資の回収▲1,766億円を含む

### 投資事例



#### グループ次世代技術研究所

- 2025年10月末、埼玉県幸手市にグループ共通の研究施設が完成。管理研究棟は国内初「ゼロカーボンビル」※2の実現を目指すなど、当社グループが保有する環境関連技術のショーケースとしても活用

#### 建築承認メタバース™

- 建築BIMモデルをメタバース化し、ブラウザ上で軽快に、アバターにより3D空間を探索・検証できるデジタルツインシステム。確認・承認プロセスを自動記録し、ゲーム感覚で発注者と施工者が課題を共有・解決
- 日本DX大賞2025奨励賞受賞

※2 建築物のライフサイクル（調達・施工・運用・修繕・解体）におけるCO<sub>2</sub>排出量が実質ゼロとなる建物

### 成長投資の狙い



※3 CN：カーボンニュートラル CE：サーキュラーエコノミー NP：ネイチャーポジティブ